

手話言語を獲得・習得する子どもの力 研究プロジェクト



本研究プロジェクトは、
日本財団の助成事業です。

きこえない・きこえにくい子どもたちにとって、手話言語の獲得・習得は 理解力や思考力を含むさまざまな認知発達を支え、手話をとおした自由で豊かなコミュニケーションは人格形成や心の健康に影響すると考えられます。本研究プロジェクトは、「こめっこ」でのかかわりをとおして、脳科学、心理発達、言語獲得(手話・日本語)、学習能力(理解・思考)の4分野から、聴覚に障がいをもつ子どもたちの真の言語力を適正に評価することを目指しています。

心理発達(人格形成)

手話言語を獲得する子どもたちが、手話を習得しながら子育てを始める親のもとで成長するプロセスを、愛着形成、認知、コミュニケーション、対人関係、自己認識等、複数の発達ラインから捉える縦断的研究を行います。子どもの観察、発達検査、保護者からの聴き取りによってデータを収集し分析します。後には性格検査等も織り込む予定です。

言語脳科学

脳科学の領域から、手話話者は脳の中で手話を言語として理解していることがわかっています。本研究では MRI 検査を用いて、その独自の文法構造やネットワークの構築、言語と思考の関わりについて明らかにしていくことを目指しています。

日本語力

手話言語を獲得して育つ子どもたちの日本語力を文法、語彙、コミュニケーションについてリサーチし、追跡していきます。

手話言語力

手話文法の力と語彙の力をそれぞれ評価するために、「日本手話文法理解テスト」「日本手話版語彙流暢性検査」を実施します。また、言語を使って他者と適切にやりとりができるかどうかを評価するために「質問応答関係検査」も実施し、それぞれの結果の分析と、対象となる子どもたちの発達的な変化を追っていきます。

学習能力(思考力)

言語を獲得することで子どもたちは概念や世界を知り、思考や発想力を広げていきます。事物がどのように繋がっているのか、自然科学の広がりやルールの発見など、思考のひらめきを探る思考力テストを行っていきます。

学習能力(理解力)

手話言語を獲得・習得して育つ子どもたちの理解力を明らかにするために、手話での絵本よみや手話劇を題材にしたテストバッテリーを作成します。質問紙とインタビューを併用して実施し、記憶、知識、理解の発達的变化を評価します。



かわさき よしこ

河崎 佳子教授 神戸大学

心理発達分野 研究統括責任者



親子の愛着が育まれる時期に手話を獲得し、情緒あふれる幅広いコミュニケーションをとおして「人とかかわる力」を培います。そして、「全部わかる」「わからないがわかる」存在として、理解を深め、思考する力を磨きます。こめっこは、ありのままを堂々と生きる子どもたちの成長を見つめ、応援していきます。

さかい くによし

酒井 邦嘉教授 東京大学

言語脳科学・学習能力(思考力)分野

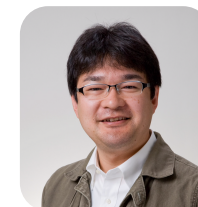


まわりに言葉があれば、赤ちゃんは自然と自分の言葉にしていきます。それは音声に限らず手話でも同じことです。そうした言葉は、考える力を育てていきます。聞こえが十分でなくとも、手話を使えば十分に考える力が身につきます。言葉があっても、考えることができるからです。

たけい わたる

武居 渡教授 金沢大学

言語獲得(手話・日本語)・学習能力(理解力)分野



聞こえない子どもたちが手話と日本語の2つの言語を身につけていくことは、きっと彼らの人生にとって強力な武器になっていきます。日本語については、学校やその他、いろいろな場所や機会を通して学ぶことができますが、豊かな手話に接することができる場はそんなにたくさんあるわけではありません。もあこめは、豊かな手話に触れることができる貴重な場だと思っています。

